

成果報告書作成要領

コアファシリティ機構 低温科学支援部門 吹田分室

成果報告書は、題目、利用者の所属と氏名、アブストラクト、本文（図表、参考文献などを含む）と、共同研究者、発表論文で構成してください。詳細については以下の各項目を参照してください。

1. 全体的な注意事項

- ・ 成果報告書は、そのまま『共同利用研究成果報告書』として冊子にまとめ低温科学支援部門から発行しますので、カメラレディ形式で作成してください。
- ・ 用紙の周囲余白として上端 25mm 以上、左右 25mm 以上、下端 35mm 以上空けてください。
- ・ ページ数は 4 ページ前後とします。多少、増減して頂いても構いません。
- ・ 報告書の文字の大きさ、フォントの種類等は指定しませんが、読みやすいようにご配慮願います。
- ・ 成果報告書に記載の共同研究者の人数、発表論文数などは、低温科学支援部門における施設利用の実績値として、報告や評価等に使用しますので、あらかじめご承知願います。

2. 題目

共同利用に申請した時の研究題目を 1 ページ目の最上段にセンタリングで記載してください。もし、申請時の題目が適切でない場合は変更して頂いても構いませんが、本文中に当初計画から何故変更することになったかについて経緯や理由を簡単に記載してください。

3. 利用者の所属と氏名

共同利用に申請した教官の所属と氏名を記載してください。共同利用に関わった他の職員、学生等は後の共同研究者に記載してください。また、所属は「〇〇研究科〇〇専攻」あるいは「〇〇研究所〇〇部門」のような記載をしてください。（大阪大学大学院、あるいは、大阪大学 は省略してください）

4. アブストラクト

普通の論文と同様で結構です。

5. 本文

普通の論文と同様で結構です。

必要であれば、図、表などを用いても結構です。カラー印刷は経費の問題があるので出来るだけ避けて、写真、図面等はモノクロで作成してください。写真は画像をパソコン上で処理したものでも構いませんし、プリントしたものを貼り付け頂いても構いません。

参考文献の形式は特に指定しませんので、普段使っている所属学会の形式などに従ってください。

必要であれば、謝辞等を加えていただいても結構です。

5. 共同研究者

この共同利用に関わった職員、学生等を記載してください。非常勤職員、学外者などが含まれても結構です。

6. 発表論文

ここには、共同利用により得られた成果を発表した論文等を記載してください。単行本、Proceedings、テクニカルレポート等を含めていただいても結構です。記載の形式は指定しませんが、第一著者名、タイトル、掲載先が特定できるような情報（掲載誌名、巻、頁など）は最低限記載してください。

学内教育研究としての成果卒業論文、修士論文、博士論文など）も発表論文として記載してください。

投稿中、投稿予定のものを記載して頂いて結構ですが、そのことを明記してください。

特許等の理由により現時点で記載できないものは、「他 2 件」のように概数だけを表示してください。

7. その他

疑問点などありましたら、低温科学支援部門 吹田分室（内線 7985）までお問い合わせください。

用紙の上端より
25mm以上あける

共同利用に申請時の研究題目を記載して下さい。もし、申請時と異なる題目にする場合は、その理由を本文中で述べて下さい。

共同利用の承認を受けた利用者の所属・氏名を記載して下さい。

工学研究科低温工学専攻
低 温 太 郎

文字の大きさ、フォント等は指定しませんが、読みやすいように配慮願います。

[illegible]

最近の半導体微細加工技術の発達に伴い、数ナノメートルという大きさの微細素子の作製が可能となり、さまざまな量子効果が現れる素子について活発な研究が行われている。○○。

左右は 25mm 以上あける

左右は 25mm 以上あける

(中略)

参考文献の形式は指定しませんので、普段使っている所属学会の形式、学術雑誌指定の形式などに従って下さい。

参考文献

- [1] L. Esaki and R. Tsu: IBM Research Note RC-2418 (1969).
[2] H. Sakaki: Jpn. J. Appl. Phys. 28 (1989) L314.

共同研究者

この共同利用に関わった職員、学生等を記載して下さい。
非常勤研究員、学外者が入っていても構いません。

〇〇〇〇 (助教授)、〇〇〇〇 (奈良先端大助手)、〇〇〇〇 (リサーチ・アソシエイト)、〇〇〇〇 (D2)、〇〇〇〇 (M2)、〇〇〇〇 (M1)、〇〇〇〇 (B4)

発表論文

共同利用により得られた成果を発表した論文等を記載して下さい。卒業論文等も含めて下さい。

- ・ T. Teion, et al.: “Electron Transport in Quantum Wires”, Phys Rev B **66** (1999) 6666.
 - ・ 低温花子：「極低温領域における超格子素子の電気伝導に関する研究」、修士論文、大阪大学大学院工学研究科、2022 年。
 - ・ A. Sensei and T. Teion: “Photoluminescence in Superlattice”, Jpn. J. Appl. Phys., to be published.
 - ・ A. Gakusei: “Electron Transport in Superlattice”, submitted to J. Low Temp. Phys.
- (他 1 件)

35mm 以上

通しのページ番号を打ちますので、下側は、
用紙の端から 35mm 以上あけて下さい。